

取手リ・サイクリングアートプロジェクト'99
ド キ ュ メ ント



Map 01



Map 04





取手リ・サイクリングアートプロジェクト'99

ド キ ュ メ ン ト

取手リ・サイクリングアートプロジェクト'99

取手リ・サイクリングアートプロジェクト'99

会期：1999年12月7日（火）～21日（火）

主催：東京芸術大学先端芸術表現科・取手アートプロジェクト実行委員会

協力：取手市

取手リ・サイクリングアートプロジェクト'99の詳細はホームページで公開しています。

<http://www.ima.fa.geidai.ac.jp/trdproj/>

（制作スタッフ：村田良二・上田麻希・吉田美弥）

ごあいさつ

取手市は、利根川と連動した人・自然が輝く文化都市を目指したまちづくりを行っています。平成11年度には、茨城県の表玄関となる取手駅東口土地区画整理事業が20年の歳月を経て、完成を迎えることができました。また10年目を迎えた東京芸術大学取手校地に、同年、先端芸術表現科が新設され、大きな希望と期待が寄せられています。

この絶好のタイミングに、市民と先端芸術表現科が主体となって「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」が開催されることになりました。内外のアーティストを迎え地元住民が参加したこのプロジェクトを通して、あらためて取手市の豊かな自然やそこではぐくまれた人々の暮らし、また芸術の楽しさを味わうことができました。期間中、取手市を訪れてくださった皆様、またこのプロジェクトを成功に導いてくださったアートプロジェクト実行委員会の皆様に、心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。

今後もこのアートプロジェクトが継続され、取手市から日本中に、さらには世界に芸術文化の発信が行われることを祈念いたします。

平成12年3月 取手市長 大橋幸雄

取手アートプロジェクトの飛躍に向けて

1999年12月7日～21日、取手駅東口周辺から芸大取手校地までの広範囲にわたる野外アート展「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」が、東京芸術大学先端芸術表現科と取手アートプロジェクト実行委員会の共催で、取手市役所の全面的なバックアップのもとに開催されました。

さまざまな形で「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」に、御支援、御協力くださいました皆様に、心からお礼申し上げます。

先端芸術表現科としては、このアートプロジェクトを一過性のイベントに終わらせることなく、国際的な視野に立ち、地域に住む人々とともに、これからアートと社会、人々とのコミュニケーションの在り方を問うための、実践的で実験的な教育の現場にしていきたいと考えています。

すでに取手アートプロジェクト2000に向けて、国内外からゲストアーティストを招いてアートプロジェクトを実現してもらうアーティストインレジデンスや、先端芸術表現科教官による教育研究プログラムなどの新しい構想に取り組んでおり、ますます充実した内容にしていく予定です。

今後とも、皆様からの益々の御支援、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成12年3月 先端芸術表現科教官一同

取手リ・サイクリングアートプロジェクト'99 概要

○企画までの経緯

平成11年4月、東京芸術大学美術学部取手校地に先端芸術表現科（Department of Inter-Media Art）が発足した。この新学科は、表現の技法やメディアにとらわれない発想や思考から、自らの表現をスタートする新しいタイプの学生を育てるための環境を提供し、広く社会に開かれた視点を持ち、多様な思想や異なる感性を持った人々とも自由にコミュニケーションできるような、柔軟でアクティブな姿勢を持った人材が育つことを目的としている。

取手校地は、平成4年4月に油画1年生と一部の大学院（油画、壁画）が移行して以来、各科（デザイン、日本画、彫刻、工芸）の学部1年生が順次移行して、1年間の基礎実技教育中心に運営されてきた。先端芸術表現科の学生は、初めて東京芸術大学取手キャンパスで4年間を過ごし、卒業することになる。それにともない、取手校地の教育環境のさらなる充実が図られる。文字通り取手校地の教育の要となることが先端芸術表現科に期待されている。

おりしも平成11年は、20年間にわたる取手市のJR東口土地区画整理事業の最終年にあたり、最開発事業の一環として芸術作品設置のための予算が計上された。長らく事業のアドバイザーをつとめた東京芸術大学建築科六角鬼丈教授により、テンポラリーに作品を設置するための場所として高さ2m、幅3mの鉄板を東口駅周辺に12基設置することが計画され、「ストリートアートステージ」と命名された。

それにもともない先端芸術表現科は、取手市から駅前4基の「ストリートアートステージ」に恒久的に設置される作品制作を依頼された。検討の結果、同科助教授である渡辺好明の発案により市内の放置自転車をリサイクルしてカラーリングを施したもの駅前に設置し、それに乗って見て回る野外アート展を取手市で開催するという企画を、取手市に逆提案した。それが「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」として、多くの市民の協力、取手市の全面的な支援を受けて実現したものである。

○取手アートプロジェクト実行委員会

平成11年7月27日、「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」の実施を支援するために、地元の市民グループ「取手フォーラム」や「夢まちづくりカレッジ」「郷土作家の会」などから有志が参加し、市民組織「取手アートプロジェクト実行委員会」が発足した。以来、取手市東口土地区画整理事業の会議室を活動の拠点として、市民、大学、市役所が緊密な連携を取り合い、アートプロジェクトの応募やボランティアの受付など、「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」の実施に必要な業務を行なった。

○アート自転車の制作

市内で回収された放置自転車の解体修理、20色にカラーリングする作業は、東京芸術大学大学院壁画研究室の助手、学生たちが中心となって行なった。

○アートプロジェクト'99 作品公募：エントリー（8月1日～9月30日）／下見会（9月12日）

「アートプロジェクト'99」には、全国から85名のエントリーがあった。エントリー希望者は下見会に参加して実行委員や関係者とともに取手市内各所を回り、また建設省河川調査船「春風」に乗船して利根川から取手市を眺め、プロジェクトにふさわしい場所を選定した。

○ロゴマーク・ポスター

TORIDEと自転車を重ねあわせたロゴマークは、先端芸術表現科助教授・日比野克彦によるものである。公式ポスターDMも同氏によってデザインされた。また取手アートプロジェクト実行委員会でも独自にボランティア募集や協賛プログラムのポスターを制作し、市民への広報宣伝につとめた。

○川俣正によるスライドレクチャー（10月2日：取手市議会棟）

先端芸術表現科教授・川俣正が、自ら手がけたアートプロジェクトや各国で開催されている野外



公募ポスター デザイン：日比野克彦



取手アートプロジェクト実行委員会打ち合わせ



リサイクル自転車制作風景



エントリー作家を迎えての下見会



ストリートアートステージ
オープニングセレモニーでの自転車試乗



小学生絵画展（新六本店店頭）



芸大美術館取手館ギャラリーでのプロポーザル展



第1回公開シンポジウムのパネリスト



自転車カラーリングワークショップ



インフォメーションセンター外観

アート展などの事例をスライドで紹介し、先端芸術表現科として「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」に取り組む意義について語った。

○ストリートアートステージ「取手リ・サイクリングアートパレット」

オープニングセレモニー（10月11日：取手駅東口駅前広場）

「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」のシンボルとなる20色に塗り分けられたリサイクル自転車が、東口駅前の4基のストリートアートステージに取り付けられ、「取手リ・サイクリングアートパレット」と命名された。除幕式には大橋幸雄取手市長、根本隆顕づくり委員会長、大沼央夫東京芸術大学美術学部長らが列席し、取手市吹奏楽団による演奏やアート自転車の試乗などが行われた。

○小学生絵画展（10月11～17日：東口商店街店頭）

写真展「取手」（11月13～23日：東口商店街店頭）

いずれも取手アートプロジェクト実行委員会による協賛プログラムとして、「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」に向けて市民意識を高めていくことを目的に行なわれた。小学生絵画展では市内東地域5小学校（小文間・吉田・井野・取手・白山）から200点の児童絵画が集まり、写真展では街の写真店の協力で集められた一般からの応募写真26点と、取手市から提供された明治時代以来の取手の街並みの変遷を示す写真17点が、東口商店街の店頭を飾った。

○プロポーザル展（1999年10月12～16日：東京芸術大学大学美術館取手館）

第1回公開シンポジウム（10月12日：大学美術館取手館）

野外アート展に先立って、全国から応募されたプロジェクト案62点が芸大美術館取手館に展示された。来館者による一般投票、先端芸術表現科教官5名と実行委員2名による選考の結果、アートプロジェクト16点（うち10点に10万円の助成金）が入選作として決定した。先端芸術表現科教員大竹美緒の「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」を記録するというプロジェクトには、別枠で審査員特別賞が授与された。

会期中、先端芸術表現科教官と実行委員会メンバーによる公開シンポジウムが「町中に展開するアートの可能性と意義」をテーマとして開催され、それぞれの立場から「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」に向けての期待や意見が披露された。また、シンポジウムの中で美術ジャーナリスト村田真氏が、各地で開催されている野外アート展をスライドで紹介した。

○競輪フェスティバルでのデモンストレーション（10月24日：取手競輪場）

自転車カラーリングワークショップ（11月7日：取手競輪場）

取手アートプロジェクト実行委員会主催の協賛プログラムとして、アート自転車のデモンストレーションと、子供から大人まで自分の自転車を持ち寄ってカラーapeでカラーリングするワークショップが開かれた。

また「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」の貸し出し用として、25台の放置自転車のカラーリングが、ボランティアによって継続的に行なわれた。

○「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」（12月7～21日）

●インフォメーションセンター

JR東口駅ビルの喫茶店跡のスペースを、会期中のインフォメーションセンターとして利用した。単管組みと赤い布による改装は、先端芸術表現科教員のアイデアによるものである。

インフォメーションセンターには、アートプロジェクト参加作家の資料ファイルやビデオが置かれ、オープンスタジオ参加者の紹介、各種イベントなど、プロジェクトの情報を一括して提供できるよう工夫された。センターの運営は取手アートプロジェクト実行委員会が中心となり、市民ボランティアや取手市職員、先端芸術表現科教員の助手および学生が交代で参加した。ガイドマップやチラシの配付、自転車の貸し出し、大利根交通・関東鉄道バスのアートプロジェクト記念共通乗車券やTシャツ、絵葉書など記念グッズの販売、問い合わせへの応対などを行なった。会期中の自転車の保守点検は地元自転車業協会の協力により行なわれた。

●アートプロジェクト'99

プロポーザル展において選出された16点のアートプロジェクトのうち、海外からの応募で参加を辞退した1作家を除き、合計15点のアートプロジェクトが実行に移された。選出された作品は造形作品にとどまらず、広範囲の環境に働きかけるものやパフォーマンスなど多様な内容や表現形態のものであり、各作家はアートプロジェクト実行委員会と連絡を取り合い、各自のアートプロジェクトの実現を図った。しかし稻田多喜夫氏のプロジェクトについては、場所の交渉が難航して実現を断念せざるをえず、インフォメーションセンターにコンセプトパネルと模型を展示した。

先端芸術表現科の1年生は全員授業としてこのプロジェクトに参加、4名が助成金を得てアートプロジェクトを実現し、残りの学生も担当教官の指導を受けながら、企画コーディネート側に回ったり、取手校地創作展（12月13～15日開催）において各自のプロジェクトを発表した。

●オープンスタジオ

市内各地にスタジオを持つ作家のアトリエを会期中、日を限って公開するという企画で、郷土作家や芸大OB、大学院生など21軒の参加が得られた。アトリエ内の作品展示から制作現場の公開、見学者とのトーク、講演会、パフォーマンスなど多彩なプログラムが実施された。

●第2回公開シンポジウム（12月12日：本陣染谷家住宅）

茨城大学地域総合研究所・雨宮昭一所長を迎えて、県指定文化財・市指定史跡でもある水戸街道旧取手宿本陣染谷家住宅を会場に、第2回公開シンポジウムが開催された。取手アートプロジェクトの会期中とあって、芸大関係や地元の人だけではなく多方面から大勢の参加があった。雨宮氏は「共創」をテーマに各地のまちづくりの事例を紹介し、取手でのアートプロジェクトの可能性について話された。先端芸術表現科教官からはプロジェクトの総括と来年に向けての期待が述べられ、参加者からも活発な質問や意見が出された。



インフォメーションセンター内部

●ワークショップ

「ガーデニングと心の世界」銅金裕司 先端芸術表現科非常勤講師（11月30日：アートプロジェクト事務局／12月7日、12日：かたらいの郷）

前半のワークショップでは、各自のプランを練るという作業から、素材集めやストーリー作りといった準備が行われた。最終回では実際に箱庭制作が行われ、午後に、完成した作品を前にしての発表会が催された。それらは発表会のビデオとともに、かたらいの郷に会期最終日まで展示された。



本陣での第2回公開シンポジウム



「ガーデニングと心の世界」銅金裕司によるワークショップ



「自然観察会」高野史郎氏によるワークショップ

「アーティストトーク（12月18日：かたらいの郷）

アートプロジェクト'99の参加作家によって、作品の解説、制作を振り返っての感想、簡単なパフォーマンスなど30分程度の個性溢れるプログラムが展開された。作家、先端芸術表現科1年生を交えてのトークセッションもあり、取手リ・サイクリングアートプロジェクトを振り返って活発な議論が交わされた。



かたらいの郷でのアーティストトーク

●創作展（12月13日～15日 東京芸術大学取手校地）

取手リ・サイクリングアートプロジェクト'99と時期を重ねて、東京芸術大学取手校地では第8回創作展（12月8～12日／一般公開は10～12日）が開かれた。創作展は、取手キャンパスに美術学部が移転して以来、学生主体で開催されてきた展覧会である。今回も取手校地専門教育棟のスタジオを中心に、建物内外で各科1年生によるさまざまな作品が展示された。芸大美術館取手館では、大学院生を中心としたグループ展が開催された。また、オランダ人アーティストのドレイ・アーバナー氏による美術学部特別講演会、川崎市民ミュージアムの深川雅文氏による先端芸術表現科公開講座「バウハウス芸術教育の革命と実験」、片桐頼継氏による大学院壁画研究室公開集中講義「レオナルド・ダ・ヴィンチの最後の晩餐について—修復を中心に」なども開かれ、多くの聴衆を集めた。

（先端芸術表現科助教授 渡辺好明）

取手リ・サイクリング アートプロジェクト'99 開催にあたって

人々がそこを訪れ作品と出会い、そして新たに「町・風景・生活環境・アート」などについて考える。そのきっかけを作ることを目的にこのアートプロジェクトは行なわれます。作品の形式は造形作品にとどまらず、アートイベント、パフォーマンスなど幅広いものを想定しています。今まで何気なく生活し、見過ごしていた取手の町をそれぞれが各自のテーマで新たに再発見し、そこで実現可能なアートプロジェクトを企画してください。

川俣正（東京芸術大学先端芸術表現科教授）



取手リ・サイクリングアートパレット
制作：東京芸術大学先端芸術表現科 1999
企画：渡辺好明
製作：秋廣誠・木村崇人・古池周文・三上清仁
協力：イイダサイクル商会・オンザロード
撮影：佐野陽一

A 濑藤康嗣+flow | Kouji Setou +flow

Title/Global Wind Chimes

Place/取手駅西口駅前大通り十慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

取手と藤沢に吊るされた風鈴が、それぞれの場所でローカルなサウンドスケープを響かせる。その様子はインターネットで中継され、ウェブ上でミックスされて新たなハーモニーを奏でた。

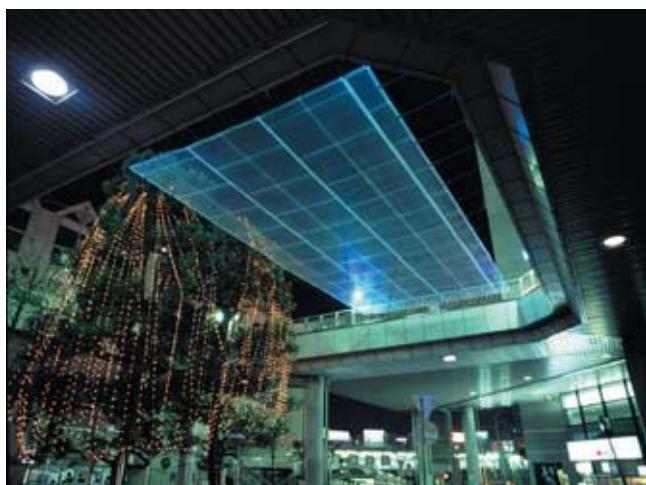
「僕は節操がない方なので、筋を通すというよりは、その時その時で面白いと思ったことをやっています。flowでは、駐車場や東大の駒場寮、湘南海岸の海の家など都市空間を使った活動も多いですね。これらは、機能を失ってしまった都市空間に僕らのソフトウェア的なものを持ち込むことで、別の視点や新しい機能を発見するというものです」

◆慶應義塾大学文学部を卒業後、同大学湘南藤沢キャンパス大学院に進学（専攻はコンピュータミュージック）。大学院時代に知り合った田中陽明（建築）および山岸清之進（ネットワーク）とともにflowを結成。韓国ソウル・Artsonje Museumにて開催の展覧会<Fancy Dance - Contemporary Japanese Art After1990>に出品。flowのWeb Site URLは<http://www.floweb.org>。

**B 中島隆** | Takashi Nakajima

Title/空中に浮かぶ水

Place/取手駅西口連絡デッキの吹き抜け



半透明の巨大なスクリーンが駅の連絡デッキの吹き抜けいっぱいに張られ、夜間、投光機で青い光で照らし出された。

「一番大変だったのが自分で納得をするって作業かな。何らかの形で表現しようとしている自分と、お祭みたいなことをイメージしているような気がする取手の人たち。素材の実験から、場所の交渉、自分との葛藤のなかで本当に作れるのかっていう感じでしたけど。作らせんでもらっただけでもありがたいし、今まで一番自分と面と向かって話ができたと思っています」

◆1974年生まれ。93年私立自由の森学園高等部卒業。その後6年間、スキーバトロール、インストラクター、ライフガード、バイシクルメッセンジャー、ソープランドの清掃などの職を転々とする。東京芸術大学先端芸術表現科在籍。

C 稲田多喜夫 | Takio Inada

Title/鳥のいる風景

Place/取手駅東口インフォメーションセンター内（模型展示）

国道6号線を挟んだ2つの対照的な建物。古い納屋の壁には鏡を用いて餌台に降り来る野鳥の影を映し、向かい合うファミリーレストランの窓を格子で塞いで鳥籠に変えて文鳥を飼うという大掛かりなアートプロジェクト。

「実現が難しく、最終的にはインフォメーションブースに2つの模型を展示しました。国道6号線をはさんで向かい合う納屋と“ガスト”。この2つの建物を野生の鳥と手乗り文鳥という愛玩動物によって対比させようと考えました。ひょっとしたらそこで食事をしている人たちも手乗り文鳥化しているかもしれません」

◆1969年群馬県生まれ。東京芸術大学デザイン科卒業後、（株）鈴木昌道研究所を経て現在東京芸術大学デザイン科非常勤助手。



D 村山華子 | Hanako Murayama**Title**/屋台を作ろう**Place**/取手駅東口インフォメーションセンター前、かたらいの郷など(移動)

真っ白な屋台には色とりどりの布やリボンなどが置かれ、立ち寄る人々に自らの身の回りを飾るために配られた。この屋台は、会期中、インフォメーションセンター前で多くの人々を集め、また市内各所を移動して出前も行なった。

「オモチャだったら遊ばれなくちゃ意味がないわけで、この屋台も、人が来て何かしてくれないと意味がないですよね。自分が何かすることで人の心がどう動くのかを知りたいんです。できたものがきれいというよりは、それをきれいで感じたあなたを感じて欲しい。理解するよりも感じることでパッとわかるという感覚を広めるのも大切だと思う。アートで政治をするみたいなことをこれからはもっと考えていきたいなあ」

◆1980年東京生まれ。武蔵野美術大学在籍。

**E 高橋康** | Takahashi Yasushi**Title**/取手の風を感じたい**Place**/取手駅東口駅前広場および市内数カ所

自転車の車輪を用いて制作された高さ2mの風車が、取手駅東口駅前の広場から東京芸術大学取手校を結ぶ一直線上の数カ所に設置された。

「戦いでしたね。どのように期間内に作品を仕上げるか、という。見た目以上に辛かったです。夏にイギリスの学生と一緒に作業をしたのですが、作品を作り出すパワーなどいい意味で影響を受けました。作品を製作しているうちに、理屈っぽい難しい作品よりは、単純明解な簡単なものの方がいいと思い始めて、だんだんと作品を単純化していきました。設置している最中に子供連れのお母さんが来て、「ほら風車よ」なんて言ってあやしているのを見てジンときちやいました」

◆1977年埼玉県生まれ。東京芸術大学先端芸術表現科在籍。

F 木村崇人 | Takahito Kimura**Title**/ジャイロ広場**Place**/利根川河川敷運動公園

ジャイロ運動とは、回転運動と重力によって起こる現象のこと、地球ゴマやコマの首振りの原理となっている。自転車を改造して作られたさまざまな形のジャイロ作品が利根川河川敷に置かれ、観客は自らこれらを用いてジャイロ運動を体験した。会期中、作者によるジャイロパフォーマンスも行なわれた。

[パフォーマンス] 18日（土）・19日（日）13:30～13:45 イトヨーカドー前ストリートアートステージ

「大学院へ進んだ後、すぐ休学してフランスへ留学したんです。言葉がまったく喋れない状態で行ったから、伝えたいことが伝わらない。だんだんと気持ちにゆとりがなくなっていました。でも作品は見て分かるもの。パフォーマンスは動きで伝わるもの。だからコミュニケーションを重視していく形になり、作品と人とを直接接付けるような、そういうものをやるようになりました」

◆1971年愛知県生まれ。仏国Ecole Supérieure d'Art et de Designに留学。帰国後、東京芸術大学大学院壁画研究室在籍。



G 坂本直子 | Naoko Sakamoto**Title/脱出欲求****Place/取手駅東口ストリートアートステージ イトヨーカドー前**

ストリートアートステージの鉄板いっぱいに張られた布に完全に閉じ込められた状態から、手足を突き出し、脱出を試みるというソロパフォーマンス。

【パフォーマンス】 12日（日）・19日（日）11:30～14:30 イトヨーカドー前ストリートアートステージ

「個人から脱出したいという欲求が強いんです。もし他の人と一緒の人格になれたら心強いのではないかと思います。この作品は、抜け出すという要素が結構強いですね。パフォーマンス中は観客はほとんど見えません。観客が見えてしまうとパフォーマンスより見せ物的な意味合いが強くなるような気がします。パフォーマンスとインスタレーションの中間のような感じでしたね」

◆1979年茨城県生まれ。「共鳴する記憶」展・「分離したリアリティ」展（97年）・「我孫子市野外美術展99」などのグループ展に参加。東京造形大学在籍。

**H 中野良寿** | Yoshihisa Nakano**Title/蛍光黄色を着た人****Place/取手駅東口周辺（作品設置およびパフォーマンス）**

友人が見かけたという全身蛍光黄色の人を、作家の住む四国からホームセンターをはしごし、徐々に自ら蛍光黄色になりながら取手まで歩いて目撃者を増やしていくというプロジェクト。取手の街角のカーブミラーにも、蛍光黄色を着た人が写り込む。

「無名人のあるちょっと飛び出したこと、何気なく人がやっているパフォーマンスは、“あ、変な人”で終わっちゃってる気がする。でもそこから何か発信しているんですね。普通の人が出すメッセージを“俺は受けたぜ”っていうのがアーティストじゃないかな。僕はそれほど立派なものは作らない。でも実際に動いて時間をかけてきたものがあるということを想像させる一種のリアリティーが結構重要だと思うんですね」

◆1967年香川県生まれ。Scotland Templehill Community 滞在後、東京芸術大学非常勤助手を経て、ボーラ芸術財団の奨学金を受けて渡英。大雄院保育園におけるプロジェクト（96年、群馬）・すれちがい／海が見える（98年、金沢）・桐生再演3など、各地で個展・グループ展を開催。

I 山崎ナナ | Nana Yamasaki**Title/リサイクル ぐるぐる回って どこへ行く あなたの心が 終着駅 プロジェクト****Place/取手駅東口周辺地区のゴミ集積所**

市内各所のマンションや道路際の指定ゴミ集積所の壁面いっぱいに、近隣家庭の食卓の様子を写した写真が展示された。

「食卓の撮影協力を頼む段階で思った以上に難航しました。食卓は家族という社会的デリケートな部分なので、他人が入ることに不安を持つというのは当然のことです。その不安を解消するために相手の関心事が何であるかを知ることが大切なんです。美術は一方的になりがちで“美術に詳しくない人には解らないな”とか、つい高飛車な考えを持つ傾向がありますよね。“解らなくてもいい”というあきらめた考え方を持っていては、ものを表現するという時点で負けちゃっていると思うんです」

◆1971年熊本県生まれ。東京芸術大学先端芸術表現科在籍。



J 石井勢津子 | Setuko Ishii

Title / 太陽の贈り物シリーズ——光の落ち葉

Place / 長禅寺中庭の池（水面に浮かべる）

池に浮かんだたくさんのホログラムの小さなオブジェを水面に浮かぶ紅葉に見立て、冬の歴史的な寺の中庭の池に、“太陽の贈り物”による華やかな陽だまりを演出した。

「お寺というと私達にとって、とても情念が深い場という印象があります。そういう所にハイテクの光の原色の作品を置くのは一見違和感がありますよね。けれども、もともと私の作品は太陽の色そのものですから。アートは人がつくり出した人工のものです。それを日常の空間の中に持っていくことによって一つの場をつくり出す、というのが私のアートとしてのプレゼンテーションです」

◆東京都生まれ。シェアーウォーター基金（アメリカ）・ユーロビアンホログラフィーアワード（ドイツ）を授与される。パリ、ベネチア、ニューヨーク等にて個展を開催し、地下空間や太陽光を取り込む野外の環境インсталレーションなども手掛ける。現在、文化庁派遣芸術家在外研修員。



K 取手彫刻クラブ | Toridetyoukokuclub

Title / 蓋え藁え

Place / 利根川河川敷運動公園



40mの長さの虹が、芝生を貼るために藁のロールを用いて利根川河川敷いっぱいに描かれた。

「木彫中心の活動でしたので、今回のような作品形態は初めてでしたが、みなさん気持ちが一つになって無駄なく迅速に仕事が終えられました。今まで経験しなかったものをやれるという期待感が皆に共通してあったからうまくいったんじゃないでしょうか。彫刻だけじゃなく”アート”という総合的なものが見られるようになったことは嬉しい。皆嬉々としてやっていました」

◆1990年取手市文化講座「木彫教室」として発足、現在に至る。会員：浅井康男・飯泉芳夫・井上章・沢井和男・篠原杉子・高田淳・高瀬紫奈子・橋川真砂子・平沼達造・広瀬規子・松田匡子・野澤寛子・吉村君江・前野澄夫。

L 豊田直香・松本郁・高橋唐子 | Naoka Toyota・Iku Matumoto・Tohko Takahashi

コレクション Title / colr@ction —個人発掘プロジェクト'99

Place / 取手市民センター（屋外）階段、市街各地でのパフォーマンス（会期中毎日）

帽子を目深にかぶった白塗りの顔、お揃いのジャケットにジーンズ姿で見分けのつかない3人が、赤いロングマフラーにつながれ、無言で連れ立って取手のまちを徘徊した。取手市民センターでは、地面にチョークで毎日の記録が残された。

「3人でアート活動をするのは初めてのこと。だから3人のグループ名はありません。たとえば電車に乗ったとき周りの人は皆初対面ですよね。そこへ私達3人が入っていくと、私達自身はそれぞれ違うと思っていても、外見が似てるというだけで3人一緒にされてしまう。外見で判断することの安心感、私達のなかにもそれについてのいろいろな考えっていうのがあるんですけど、それはどうなの？って、探していくたいと思いました」

◆女子美術大学の卒業生、4年生、3年生の3人組。



M 五十嵐靖晃 | Yasuaki Igarashi**Title/市街化抑制地域の変貌****Place/取手吉田地区住宅地**

取手駅東口を出たバスは、吉田のバス停から利根川に沿った道に出る。右手に堤防、左手にはのどかな田園風景。各家の窓には作者の依頼通り、会期中毎日、赤い布団袋が住民によって干され、この地域の風景を変貌させた。

「布のイメージやインスピレーションは、タイに行った時に見た、たくさんの洗濯物や布が寺院などの建物を包んでいた光景からきている。僕の求める温かさは、太陽のイメージの温かさもあるし、一軒一軒の家の中での洗濯物を干すという行為の温かさ。家庭の温かさみたいな、そういうものも絡めて布の色は赤など、暖色系にしようと思いました。ビジュアル的な変化はもちろんですが、僕が住民に話しかけることによって多少なりとも心境の変化があつってくれたらなって思う。このアートプロジェクトだと、そういうものに参加するんだって気持ちになってくれればいいと思います」

◆1978年千葉県生まれ。東京芸術大学先端芸術表現科在籍。

**N 山成みほ** | Miho Yamanari**Title/かなたの窓口****Place/かたらいの郷**

白い家に入ると、モニターに何か白いものを金槌でノックし続けている映像。内壁には白地の上に白い浮き文字で刻まれた2つの言葉「地平の下からあらわれる」「視界のかなたに消えていく」。振り返ると入り口からは本物の夕空が見え、壁一面に上空の夕暮れが描かれている。

「ある時、飛行機に乗って窓から空を見て、結構腰が抜けてしまったんです。本当にリアルに感じられて、そういう所があるんだということに驚いたんです。自分とは関係ない時間、もしかしたら人間と関係ない時間が空には流れているのかもしれないと思えてきました。都会では至近距離だけ見ていればいいんだけど、取手にいると、はるか遠くの時間を意識してしまいます」

◆1974年アメリカ合衆国ニュージャージー州生まれ。84~87年 台湾台北市で過ごす。東京芸術大学大学院壁画研究室在籍。

O 粟野ユミト | Yumito awano**Title/Lucles by cycle,Trydhan (ルーシーズ・バイ・サイクル、トリディアン)****Place/かたらいの郷**

ストローの束=ルーシーを通して見ると、光の干渉現象によって不思議な光景が広がる。前籠に取り付けられたルーシーで、自転車で走りながら視覚の変化を体験するという作品。

「昔は河原芸人って言って、唄を歌ったり楽器を演奏したり、そうした芸をする人達は居住地を定めないで、つねに村から村へ、街から街へ季節ごとに移って行った。彼らの定住しちゃいけないという心構えと、定住者側の喜んで迎え入れてあげようという心構えが、うまく噛み合っていて、1年の中の秋なら秋にふっとリンクして、それを過ごしたらまた後腐れもなく去って行く。このプロジェクトも、そこに普段生活していない私達みたいなのが突然来て、街の中でアートをやりましょうって、何か変なことやり始めたりするんだけど、でもそれってすごく昔からあったことなんだ、って思います」

◆1964年愛知県生まれ。金沢美術工芸大学卒業。空間造形、音楽制作発表のかたわら商業施設設計に従事する。現在大学や専門学校の非常勤講師。



オープンスタジオ イン 取手'99

「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」の開催にあわせ、その一環として取手市在住の作家及び取手市に住む大学関係者が、各自の活動の拠点としているスタジオや自宅を一般公開し、作品の展示や制作活動の紹介を行うイベント、「オープンスタジオ イン 取手'99」が行われた。

東京芸術大学の取手校地が開校して8年。その間、取手校地に在籍する学生をはじめ、多くの大学関係者が一時ながらもこの町に住んだ。なかには、そのまま取手を制作の拠点として活動している者もいる。

しかし、それらの活動はあまり知られていないのが現状である。

市民が作家の創作の現場に直に触れ言葉を交わす。オープンスタジオは、同じ取手という土地に住みながら、それぞれに違う場で活動している人と人を関係付けようとする試みである。

1 松田朝旭

散歩を兼ねいつもスケッチしている取手の風景や、家族の成長記録のスケッチブックが公開された。



「私の仕事場は16畳の普通の部屋です。作品は外国風景が主で、とくに街、教会、遺跡などの建物が好きでよく描きます」

◆1957年茨城大学美術科卒業。68年「第53回二科展」で特選受賞。現在、二科展会員・日本美術家連盟会員・茨城県芸術祭会員。

2 小野環

「キツネ作戦」

1枚の新聞写真が持っていた奇妙な実在感を手がかりに行なった、一連の制作が展示された。



◆1998年東京芸術大学大学院美術研究科油画修了。現在、同大学非常勤助手／個展：99年フタバ画廊／グループ展：98年「新世紀へ・平面part1」村松画廊他。

3 日高伸治

商店街に面した一角を日高、古池の2人で共同使用している。ロウを型に流し込んで箱形にし、それを編み目状のパターンに並べて表面積が増していくようにした、一連の作品が展示された。



◆1997年東京芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了／個展：99年 ギャラリーQ・グループ展：98年「現代美術展」デュセルドルフ市立ギャラリー他。

4 佐藤佳代

4 金田鹿男

工房には制作場、窯場、展示場があり、来場者は、土から陶芸作品が作られる過程を見て見ることができた。



「取手に窯を築いて30余年。仕事は白い化粧を用いる象嵌、刷毛目、粉引を主に作成を限ってきました。ここ7、8年でオリジナルな彩色焼締、あるいは彩色焼締象嵌という作風を拓きつつあります」

◆陶芸家。日本工芸会正会員、茨城工芸会会員。

5 佐藤佳代

「瞑想ルームプロジェクト」

訪れた人とともにラジオのホワイトノイズを聞きながら、5分間の瞑想を行うプロジェクトが行われた。



「私は、自分自身の身体から得る感覚により作品を形成制作しています。その時に一番自分に密接に関わっているものごと、物質をもとに制作しています」

◆1997年女子美術大学絵画科洋画卒業。2000年東京芸術大学大学院美術研究科壁画修了。

6 田中良

日常制作を行なっている自宅の一室を中心には、家の内部の各所に大小さまざまな油彩画が多数並べられた。



「主たるテーマは“遡北”であり、しかも厳冬の風景です。最近は、葦原や道をテーマにしていますが、いずれも心象風景です」

◆1958年「二科展」特選受賞。85年「二科展」会員努力賞受賞。現在二科会評議員、茨城県芸術祭美術展委員、審査員。

7 金重あつこ

なんくるみーの庭プロジェクトの過程を公開。



「私の生活のために植えた実になる草木は、鳥を呼び、鳥によって見知らぬ芽がもたらされた。なんくるみーとは風や鳥によって運ばれた種子が発芽し、育つことをいう」

◆1999年東京芸術大学大学院美術研究科壁面修了／展覧会：98年「アートフェスティバルイン鶴来」他。

8 高木哲

「虹鱒」

借家の外に、多くの虹鱒が泳いでいるビニールプールが設置され、来場者は用意された長靴を履き、その中に入ることができた。



◆1994年東京芸術大学美術学部彫刻科卒業。96年東京芸術大学大学院美術研究科彫刻修了。

11 澤登恭子

ビデオが上映されるなか、室内に設置してある3台のレコードのターンテーブルが回転しており、そのレコードには点滴瓶からはちみつが垂らされている。本人が、それをひたすら嘗め続けるというパフォーマンスが行われた。



◆1998年東京芸術大学美術学部絵画科卒業。2000年東京芸術大学大学院美術研究科壁面修了。個展「2000年CAS」を大阪で開催予定。

7 三浦理絵

「家族の肖像画」

アパートの全体を生活しているそのままの状態で公開。奥の一室には本人が収集した母親、父親こまつわるもの、昔の写真、本、資料などさまざまなものが一つの台上に並べられ展示された。また公開期間中には、実際にアパートに親が来場、講演を行なうなどのイベントも行なわれた。



◆1999年東京芸術大学大学院美術研究科壁面修了／個展：99年個展（取手ギャラリーロード）。

9 栗田政裕

ボックスウッドクリエーション、その5坪に満たない空間に、版画を制作する機能、本にするための原稿を執筆する機能、編集、構成、そして印刷、最終的な製本の工程まで、1冊の書物が生みだされる全ての機能が備えられており、訪問者は望めばどの工程も見学することができた。



◆1975～76年東海大学と創形美術学校にて版画を学ぶ。94年「日本の木口木版画展」板橋区立美術館。

12 平田五郎

借家ではあるが、作家自身により大幅に手を加えられた白い家。玄関から順次写真が点々と展示され、来場者はそれを見ながら奥の部屋（スライド上映）に導かれていった。



「ろうを素材にして、中に人が入ることができる家を作ることが多いので、家の仕事のほとんどが、庭でろうのブロックを作ることです」

◆1990年東京芸術大学大学院美術研究科絵画科油画専攻壁面修了。個展、グループ展多数開催。

8 小長谷謙二・ゴリ

「太った子供の部屋」

作られた肥満児が椅子にもたれ掛かり、ビデオカメラのファインダーを覗いている。ファインダーの中には飛行機が飛んでいく映像が延々と流れている。借家の一室を使用した作品展示。



◆小長谷謙二：1970年東京芸術大学大学院美術研究科彫刻修了◆ゴリ：97年東京芸術大学美術学部彫刻科卒業。98～99Chelsea College of Art and Design MACourse。

10 島田忠幸

アトリエの制作道具類とともに、彫刻作品の写真パネルが展示された。また、“ワインと、藝術と、講演の集い”と称するイベントが行われ、歴史家、大学教授、新聞記者、画家といったバラエティーに富んだ講師陣が、ワインを片手に参加者と藝術について語った。



◆個展：1998年KEYgallery／グループ展：98年「あびこ野外美術展98、99」、99年「第3回雨引の里と彫刻」他多数。

13 奈良橋優

古い家屋の壁面いっぱいに大きな水墨画を展示。また時折来訪者に対し、ワンポイント水墨画講座も開かれた。



◆1997年武藏野美術大学大学院日本画コース修了／個展：99年ぎゃるりしらの（銀座）／グループ展「私立久我山高等学校創立50周年記念展」三鷹市民ギャラリー他。

14 鈴木実

彫刻作品の工房。大きな空間の中には、作家が今まで制作してきた数多くの彫刻作品が置かれている。現在制作中のものもあり、それらを前に作家と来場者の対話が行なわれた。また尺八の実演も行なわれた。



◆1978年第7回 平柳田中賞受賞。85年中原悌二郎二郎賞受賞／展覧会：91年「日本近代彫刻の一世纪・写実表現から立体造形へ」茨城県近代美術館、他展覧会多数開催。

17 三上清仁・岩間 賢

利根川河川敷に建てられたテントを器に、さまざまなイベントが催された。



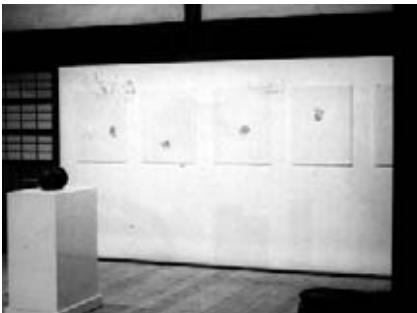
「利根川のほとりでその人に出会った。ズズメの大群を数えるのが好きらしい。数えるにはあまりにも鳴き声がうるさいので、彼は「パンッ」と大きく手をならした。鳥は一齊に鳴き止んだけど、だからといって数えやすいものなのだろうか？」

◆三上清仁：現在、東京芸術大学非常勤助手

◆岩間賢：現在、東京芸術大学大学院後期博士課程在籍。

20 斎藤裕之

1200cm×900cmの「Circle from Taking Place (Deductive)」をはじめとした平面作品を、アトリエである古い民家に、他の2作家（酒巻洋一・真理子）の作品とともに展示。



◆1992年フランス政府給生として渡仏。95年東京芸術大学大学院後期博士課程修了／個展：99年「ARTING TOKYO 21×21」他多数。

15 福田玲子

小文間の芸大の通りにある歯科医院の庭と室内いっぱいに、大小さまざまな油絵の作品を展示。



「小文間の周辺で出会ったものたちをモチーフにして、繰り返し営まれる命の生と死をテーマに描いています」

◆武蔵野美術短期大学卒業。94年「文化庁現代美術選抜展」出品、他出品多数。現在、主体美術協会会員。

16 工藤晴也

作品とともに、制作のための工具や材料が普段通りに展示された。制作途中の作品についての解説も行われた。



「モザイクは、大理石や色ガラス、タイル等を小さく割り、それらをセメント等で接着して仕上げていきます。作品を設置する場所の条件に適応させるため、モザイクの工法にはさまざまなバリエーションがあります」

◆1982年東京芸術大学大学院美術研究科壁画修了。92年国際モザイク作家協会（AIMC）会長。

18 野口隆之

自宅内のアトリエを公開。さわり織りのタペストリーと詩の組み作品30余点が展示された。また、機織りのワークショップも開かれた。



「絵を描くように色糸で自分のイメージを織っています。その時々を詩に書いて作品にしています」

◆1986年茨城県立下妻養護学校高等部卒業。89年「ベリースペシャルアーツフェスティバル」参加（ワシントンD.C.）。現在、放送大学教養学部人間の探究専攻在学中。

19 海老原靖

アトリエ内に、映画「シャイニング」（スタンリー・キューブリック監督）のセットが再現され、来場者は中に入ってそれを体験することができた。



「私は映画というかくも魅力的な装置に強く引かれる。映画はカメラのフレームの中において真実であり、映画という名のもとにリアルである」

◆1999年、東京芸術大学絵画科油画専攻卒業。現在、東京芸術大学大学院美術研究科在籍。

20 酒巻洋一・眞里子

大理石の彫刻作品（酒巻洋一）とガラスの作品（酒巻眞理子）が、古い民家（斎藤アトリエ）の広い空間を利用して展示された。

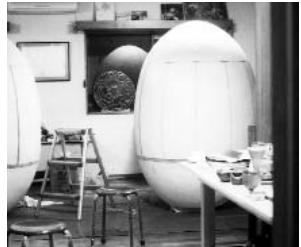


◆酒巻洋一：94年東京芸術大学大学院後期博士課程満期退学／個展：99年「水にうつる月」福原画廊

◆酒巻眞理子：97年東京芸術大学美術学部絵画科卒業／個展：99年淡路町画廊。

21 箱岩博・三河美喜

室内いっぱいに展開する、三河美喜による公開制作が行われた。また、アトリエで開かれている絵画・陶芸教室の生徒作品も同時に展示された。



「住宅としての建物と私達が作るものとがいかに共存しているのか、作家側の視点はどのようなものか、についてご覧いただければと思います」

◆箱岩博：1998年東京芸術大学大学院美術研究科壁画修了／個展：99年Gアートギャラリー他◆三河美喜：98年東京芸術大学大学院美術研究科壁画修了／グループ展：99年「Standing in the Future」テレコムセンター他。

取手リ・サイクリング アートプロジェクト'99を終えて

東京芸術大学取手校地が開校して以来、私たちは東京芸術大学と取手市民による「アートのあるまち」の実現を久しく待望しておりました。平成11年4月、取手校地に先端芸術表現科が発足されたことを機に、取手市との間に「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」構想が生まれ、「取手アートプロジェクト'99」と「オープンスタジオイン取手'99」が実施されることになりました。

これに共鳴した市民ボランティアグループ（取手フォーラム、夢まちづくりカレッジ、東口商店の皆さん、そして一般市民有志など）は、「取手アートプロジェクト実行委員会」を発足し、運営に参加いたしました。

私たちは、このアートプロジェクトが市民にとってより身近で楽しく感じられるように、支援プログラムとして、先端芸術表現科が駅前のストリートアートステージに設置した20台のカラーリサイクル自転車に加え、放置自転車や個人所有の自転車のカラーリングワークショップを行い、「自転車いっぱい運動」を展開いたしました。また商店のご協力を得て、店頭での「小学生絵画展」および「取手写真展」を実施することができました。

「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」の最高潮である12月には、JR取手駅にある喫茶店跡がリニューアルされ、インフォメーションセンターが開設されました。そこでは、私たち実行委員会スタッフによってガイドマップが配布され、カラー自転車の貸し出しサービス、催し物や作家プロフィールの紹介・展示場所案内、さらにTシャツなど記念グッズの販売などが行なわれました。

この催しに対して、多くの観客や市民からお褒めの言葉や、時には厳しい叱り、評価をいただきました。これらのご意見は、今後の展開に大いに反映すべき課題であると考えております。

平成12年3月
取手アートプロジェクト実行委員会 委員長 根本 凡

取手アートプロジェクト'99ドキュメント

2000年3月発行

企画 東京芸術大学先端芸術表現科
構成・編集 渡辺好明・古池周文・黒田美幸
デザイン 岡田由美子
マップ制作 木村稔
写真 佐野陽一他
発行 東京芸術大学先端芸術表現科・取手アートプロジェクト実行委員会
印刷 阿部写真印刷(株)

RE CYCLING ART PROJECT 1999 12.7-21



I 取手アートプロジェクト'99

一般公募より選考された15作品の展示。
期間：12月7日(火)～21日(火)

II シンボジウム

日時：12月12日(日) 14:00～16:00
場所：旧取手宿本陣染野家住宅 ※暖房設備なし【Map05】
パネラー(予定)：
東京芸術大学先端芸術表現科教官(川俣 正、藤幡 正樹、渡辺 好明、佐藤 時啓、日比野 克彦)、他

III アーティストトーク

「取手アートプロジェクト'99」参加アーティストが、これまでの制作についてスライド等を使って紹介してれます。

日時：12月18日(土) 13:00～17:00
場所：かたらいの郷【Map01 b-03】

IV 先端芸術表現科 取手アートプロジェクト'99

東京芸術大学 先端芸術表現科1年生としての参加プロジェクト。
期間：12月7日(火)～21日(火)
場所：東京芸術大学取手校地・取手市内他

	12月	7(火)	8(水)	9(木)	10(金)	11(土)	12(日)	13(月)	14(火)	15(水)	16(木)	17(金)	18(土)	19(日)	20(月)	21(火)
取手アートプロジェクト'99		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
シンボジウム																
アーティストトーク																
先端芸術表現科 取手アートプロジェクト'99		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ワークショップ			●	●												
オープンスタジオイン取手'99		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
東京芸術大学「創作展」																

V ワークショップ

「ガーデンシアター～心の庭の物語」銅金 裕司
日時：第1回 11月30日(火) 18:30～20:00
第2回 12月7日(火) 18:30～20:00
第3回 12月12日(日) 10:00～12:00 第1部 作成
13:00～16:30 第2部 お話し会
作品展示：12月13日(月)～21日(火) 9:00～17:00
場所：かたらいの郷【Map01 b-03】

「取手自然観察ワークショップ」高野 史郎
日時：12月19日(日) 13:00～16:00
場所：取手市内各所
お問い合わせ：取手・サイクリングアートプロジェクト インフォメーションセンター及び
取手アートプロジェクト実行委員会事務局

VI オープンスタジオイン取手'99

取手市及び近隣地域在住の作家が各々のスタジオを一般公開します。
期間：12月7日(火)～21日(火)

同時開催：東京芸術大学「創作展」

日時：12月10日(金)～12日(日) 10:00～16:00
場所：東京芸術大学取手校地【Map01 c-05】

【取手アートプロジェクト'99】

- | | | | |
|----------|--------------|-----------|--------------|
| A 瀬藤 康嗣 | 【Map01 b-01】 | J 石井 势津子 | 【Map05】 |
| B 中島 隆 | 【Map04】 | K 取手彫刻クラブ | 【Map05】 |
| C 稲田 多喜夫 | 【Map04】 | L 豊田 直香 | 【Map05】 |
| D 村山 華子 | 【Map04】 | 松本 郁 | |
| E 高橋 康 | 【Map04】 | 高橋 唐子 | |
| F 木村 崇人 | 【Map04, 05】 | M 五十嵐 靖晃 | 【Map01 b-03】 |
| G 坂本 直子 | 【Map04】 | N 山成 みほ | 【Map01 b-03】 |
| H 中野 良寿 | 【Map04, 05】 | O 萩野 ユミト | 【Map01 b-03】 |
| I 山崎 ナナ | 【Map01 b-02】 | | |

【オープンスタジオイン取手'99】

- | | | | |
|----------|--------------|----------|--------------|
| 1 松田 朝旭 | 【Map01 a-01】 | 12 平田 五郎 | 【Map01 b-02】 |
| 2 小野 環 | 【Map01 a-01】 | 13 奈良橋 優 | 【Map01 b-03】 |
| 3 日高 伸治 | 【Map01 a-01】 | 14 鈴木 実 | 【Map01 b-04】 |
| 古池 周文 | | 15 福田 玲子 | 【Map01 b-04】 |
| 4 金田 鹿男 | 【Map01 a-01】 | 16 工藤 晴也 | 【Map01 c-05】 |
| 5 佐藤 佳代 | 【Map01 a-01】 | 17 三上 清仁 | 【Map01 c-05】 |
| 6 田中 良 | 【Map01 a-02】 | 8 小長谷 謙二 | 【Map01 a-02】 |
| 岩間 賢 | | 18 野口 隆之 | 【Map02】 |
| 7 金重 あつこ | 【Map01 a-02】 | 19 海老原 靖 | 【Map02】 |
| 三浦 理絵 | 【Map01 a-02】 | 20 斎藤 裕之 | 【Map03】 |
| 小長谷 謙二 | 【Map01 a-02】 | 酒巻 洋一 | |
| ゴリ | | 酒巻 真理子 | |
| 高木 哲 | | 21 箱岩 博 | 【Map03】 |
| 栗田 政裕 | 【Map01 b-02】 | 三河 美喜 | |
| 島田 忠幸 | 【Map05】 | | |
| 澤登 恵子 | 【Map01 b-02】 | | |



03

04

05

Map 02



Map 05



Map 03



